

## 「ポリオ友の会東海設立 20 周年記念祝賀会」のご報告

竹中 幸彦

平成 30 年 11 月 18 日、サイプレスガーデンホテルで行われました「ポリオ友の会東海設立 20 周年記念祝賀会」についてご報告します。

当日、84 名の参加があり、藤田医科大学病院・才藤教授をはじめ、いつもお世話になっている諸先生に加えて、ポリオネットワークから柴田多恵さんもご参加され盛大に行われました。

祝賀会の概要は、次のとおりです。



### 1 講演「BGraS プロジェクト(検診会)について」

京都府立医科大学 沢田光思郎 先生

(講演概要)

ポリオ定期健診 BGraS プロジェクトは、2006 年より開始した、ポリオ友の会東海と藤田医科大学との共同事業です。

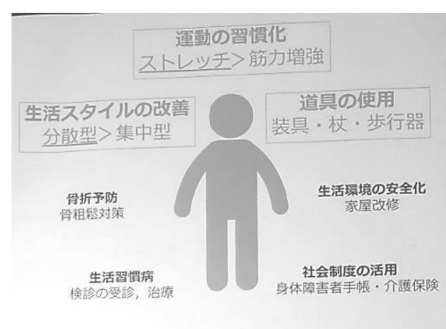
この検診会は、医療と患者をつなぐ役割として、ポリオ友の会東海が、会の中で情報交換や情報発信を、藤田リハ部門は、医学的精査と、患者自身の生活指導・運動療法等を行い、ポストポリオなどの日々の悩みを低減していくことを目的としています。

ポリオ定期検診を受診した方の検査データからは、不良足側の筋力の衰えは少ない、強いほうの足は、股関節中心に筋力が落ちてきている傾向にあることが解かります。

装具については、弱いほうの足につけている方が多いですが、良いほうの足や膝にもサポーターなどの装具を着用するケースもあります。

PPS (ポストポリオ症候群) の関連症状としては、疲れやすい・筋肉痛などがあり、良いほうの足に筋萎縮や筋力低下等がみられます。

悪いほうの足の筋力は維持できている一方で、良いほうの足の筋力は軽く筋力が落ちてきています。また、痛みは良い方の膝と下腿に増えています。これは、加齢との関連もあります。そのことが、歩行の状態の低下を招いています。



PPS 対策として、3つの重要なものがあります。

#### (1) 生活スタイルの改善

例えば、公園で 3000 歩連続で歩くのではなく、適度に休憩をとる。

#### (2) 運動の習慣化

筋トレよりはストレッチ

### （3） 道具の使用

装具・杖・歩行具の使用。怪我で骨折して寝たきりになってしまう場合もあります。早めに道具を使用する。

#### 講演「リハビリテーション医学の考え方」

藤田医科大学教授 才藤栄一先生

（講演概要）

一般の人の日常生活の活動行動では、活動をすると筋力が増えます。ただ、皆さんは若いころの無理なりハビリ等で PPS になっているので、あてはまりません。逆に、筋力を使わないと減っていきまいます。

要は、活動が皆さんの筋力や筋量を変える。それは筋肉だけでなく、あらゆる臓器にもあてはまります。人間の体は、使うと増え使わないと減っていきます。使うと増えるというのは、変なので「リハビリテーションマジック」と呼んでいます。

周りを変えて（杖や装具など工学的なもの）あげると人は活動できるようになります。代償だけでなく、自らもできるようになるので、治療的な意味合いもあります。人は新しい行動を「学習」することができます。「学習」を利用して、具合が悪い足にどうやって新しい歩き方を学ばせるかが治療につながります。

これが新しいリハビリの考え方です。

次に、最近の病院の新しい取り組みを2つ紹介します。

一つ目は、大学病院の救急機能、包括支援センター、地域の医師会がトライアングルを組み地域住民に良質で効率的なセーフティネットを提供する試みです。

具体的にはまちかど保健室、健康相談学生が団地に住むことを行いました。

これをきっかけに、たくさんいろいろなことが起きています。

その一つが、「ロボティクススマートホーム」です。これは、高齢者がどうやって自分たちで安心快適に生活できるか、独居でも死ぬまで楽しく過ごせる家を研究しようとする試みです。モデルルームには、生活支援ロボットとして、歩行のための懸架装置各種、移乗アシスト、バランス練習アシストなどが入っています。

もう1件は、三重県の七栗記念病院に新しい回復期リハビリ病棟ができました。これは、急性期から回復期までのリハビリをシームレスに効率的に行うための施設です。

リハビリにロボットを用いたり、24時間モニタリングできる服を導入しました。これは、心拍数やどういう姿勢で寝ている、動いているかなどをモニタリングできるものです。これらを用いた結果、入院期間は10日短縮され、良くなる率は1.7倍になり家に帰る率も高い。大まかには良い結果がでています。

七栗の過去のデータと比較しても新しい病棟では良い結果が得られている。そういう点でもリハビリは着実に進化しています。

才藤教授から、2019年の6月に神戸で国際リハビリテーション医学会が開催され、ここで、世界に発信するブースを皆さんで出してほしい。日本のこの地域でポリオに関して医療を受けられている幸せを、他の人に伝えてあげる、これはみなさんのこれからの仕事と思うと結ばれました。

#### 2 パネルディスカッション「ポリオ友の会東海 発足当時を語ろう」

横井敦子顧問 向山昌邦代表 神田公弘氏



横井顧問からは、20 年前の発会の発端の話、また、2001 年の東海が実施した「ポリオ全国会総会」の写真では、「みなさん若いね」「これ私だ」などつつぶやく声も聞かれました。

向山代表は「横井先生が会を開くことを聞いて、参加しました。それ以後は、医療に関する事、ポリオ・ポストポリオ症候群に関する事を会員のみなさんに知ってもらうことを主に活動しています。」と述べられました。

また、「10 周年の記念の会」などのスライド上映で、「友の会のポリシーとして、懇親だけでなく、いろいろな先生に講演をいただいくことが、会の目玉になっている。」などのご感想がありました。

会設立の契機となられた、ポリオネットワークの柴田多恵さんも紹介され、ご挨拶されました。最後に、横井顧問が「社会貢献支援財団」と「東海テレビひまわり賞」を受賞される報告がありました。

会場は、横井先生への祝福と、今までの感謝でみなさんの拍手で終わりました。

### 3 アトラクション

- (1) ソプラノ独唱 山口久美子さん (ピアノ伴奏 稲田礼子さん)
- (2) ピアノ演奏 山口智佳代さん (連弾 池田寿美子さん)

山口久美子さんは、ポストポリオのためになかなか活動ができなくなり今はコンサート活動を控えています。ピアノ伴奏をしてくださる稲田礼子さんは現在、大学・高校の講師をされています。

プッチーニ作曲 オペラ「ジャンニ・スキッキ」よりアリア「私のお父さん」(いとしのお父さま)、日本歌曲より鎌田忠良作詞 中田喜直作曲 「霧と話した」・平井多美子作詞 中田喜直作曲 「くりやの歌」を歌われました。

ピアノ演奏の山口智佳代さんは、名古屋音楽学校でピアノ講師をされています。連弾をしてくださる池田寿美子さんは、合唱団の伴奏やアンサンブルピアニストとして活躍されています。

ドボルザーク作曲「スラブ舞曲」Op72-1 Op72-2 は連弾で、シューマン作曲 リスト編曲「献呈」をソロ演奏されました。山口智佳代さんから「献呈」は、「みなさまのこれまで、障害に負けずに力強く生きてこられた人生への思いと、これからのさらなる幸せを願いつつ演奏させていただく」との説明がありました。

終わりに阿部副代表から、参加者のみなさんに、ポリオ友の会東海の運営に携っていただけるようお願いと、藤田医科大学の諸先生方に、これまで同様の、検診会の継続、会報への原稿の寄稿、講演会の実施などの支援の継続のお願いがありました。

